

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年12月8日

【評価実施概要】

事業所番号	3070102441
法人名	社会福祉法人 河西福祉会
事業所名	グループホームぷすぷす
所在地	和歌山県和歌山市松江東1丁目7-25 (電 話) 073-454-8900

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成21年11月19日	評価確定日	平成21年12月8日

【情報提供票より】(21年10月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成14年5月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 5人, 非常勤 6人, 常勤換算 5.9人	

(2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	3 階建て	3 階 ~	3 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	実費 円	昼食 実費 円
	夕食	実費 円	おやつ 実費 円
	または1日当たり 円		

(4)利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低 78 歳	最高 95 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人青松会 河西田村病院・医療法人井上病院・さわもと歯科 医院・松本メンタルクリニック
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

母体法人は多方面の高齢者介護事業に取り組み経験が蓄積されており、グループホームも総合的な連携の下に運営されている。職員に看護師いる他、併設診療所の医師に週2回診察を受けるなど健康管理が行き届き利用者・家族に安心感を与えている。職員は家庭的な雰囲気のなかで明るく真摯に利用者に接している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価においては改善課題は出されていない。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	今回の自己評価は、職員が評価した事項を職員会議で話し合いホームとして取りまとめた。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目③	運営推進会議ではホームから夏祭りや観劇等の事業、利用者の状況等を報告し、構成員から運営上の問題点についての助言があり、出された意見はサービス向上に活かしている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目④	家族から出された苦情については詳細に記録し、職員の態度や言葉遣いであれば接遇研修を行うなど、運営に反映させている。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	法人の開催する夏祭りに利用者・家族や地域の人々が参加し交流している。また近くの神社の行事に利用者が参加したり、近辺の幼稚園を訪問し、園児との交流などが行われている。

2. 評価結果（詳細）

（ ☐ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者がゆったり楽しく、活気ある生活をし、不用意に手を差し伸べないで見守る思いやりや優しさを大切に、社会に根ざしたやすらぎ心地よい居場所を提供しますという趣旨の独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝申し送り時に理念をリーダーが唱和し、職員は理念を確認し日々利用者との生活のなかで理念を実践するよう取り組んでおり、ケアプランを作成するときも念頭に置くようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	法人の開催する夏祭りが賑やかに行われ利用者や家族も参加して地域の人々と交流している。また近くの神社への初詣や恵比寿などの行事に利用者が参加したり、近辺の幼稚園を訪問し園児との交流が行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は、職員に評価項目のコピーを渡し、職員が評価した事項を会議で話し合ってホームとしてとりまとめた。前回の外部調査においては指摘事項は出されていない。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は3～4か月に1度開催しており、ホームから夏祭りや観劇等の行事や利用者の状況などを報告し、構成員から運営上の問題点について助言があり、出された意見をサービス向上の参考としている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは地域との連携や利用者のオムツの支給条件等について問い合わせ利用者のサービスの向上を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族には毎月、ホームにおける利用者の生活の様子や行事を記載した「ふすぷすだより」を個別に送り報告している。また家族が面会に訪れたときは利用者の日ごろの生活や健康状態を必ず報告している。なお健康状態に異常があればその都度連絡している。金銭管理は通帳のコピーと領収書を家族宛送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人に家族からの相談や苦情の窓口を設け第三者委員を置いて対応しており、ホームの玄関のカウンターの上に投書箱を設置している。家族等からの苦情については詳細に記録しており、職員の態度や言葉遣いであれば接遇研修を行うなど運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の移動は出来るだけないようにしており、退職などで新しく入ってきた職員は初対面の不安を感じさせないよう利用者とのコミュニケーションを大切にし、先輩職員と共に業務を行って徐々に利用者に馴染んでもらうようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で毎月行う実技研修に参加したり、接遇等の講義にも自由に参加している。また地域密着型サービスケアネット和歌山が開催する外部研修にも職員は業務の都合を見て希望により参加できる。なお研修内容は職員会議で報告しレポートを提出している。新しい職員が入ってきたときは先輩と一緒に介助を行い徐々に業務や利用者の状況等を把握するようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービスケアネット和歌山に加入しており同業者と交流している。他のグループホームとの相互実習にも参加し、実習内容や他のホームのケアの方法等を職員に伝えたり、他のホームの職員が来訪したときは刺激になっており、サービスの向上の参考としている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人・家族に事前に見学してもらい、入居の当初は不安を少なくするため家族に面会に来てもらったり、職員が話しかけたり散歩や買い物に連れていって、徐々に職員や他の利用者に馴染んでもらうようにしている。また同じ建物内の他の施設を利用して入居する人は一般にホームの雰囲気にも慣れている人が多い。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者とともに支えあう関係づくりに努めているが、介護する側になり職員のペースになっていることがある。	○	職員の業務が多忙であると考えられるが、介護する一方の立場でなくお互いに支えあう関係づくりへの配慮を期待する。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや希望を本人の返答能力に応じて質問する方法を工夫し把握するよう努めているが、言葉により意向の把握が困難な利用者が多くなっており、利用者の表情を見て把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日常の本人の状態や本人・家族の意見や希望を聞き、全職員で意見を出し合って介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3～4か月に1度見直しを行っている。また本人の状態に変化があれば、その都度、関係者間で話し合って見直している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院と医療連携体制をとると共に、ホームに看護師がいる他、併設診療所の医師から診療を受けるなどの健康管理を行い、身体の異常時にも対応できる体制がある。また緊急性があれば病院への移送サービスも行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族等の希望するかかりつけ医として併設の診療所の医師に受診している。なお本人・家族の希望により、市内の中核病院や皮膚科医院等に通院している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期にどこで過ごすかについて、本人・家族・医師等と話し合い方針を共有しているが、入院や特養入所が多い。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の人格を尊重し、誇りを傷つけ不快な思いをさせる言動がないように注意している。また個人情報には洩らさないように気をつけ職員室で管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合が優先しないよう、日中利用者とコミュニケーションを取って希望を聞ける職員を配置し対応している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物に利用者と一緒に行ったとき朝の食べたい食材を選んでもらったり、個人のもてる力に応じ調理の味付け・盛り付けや皿洗いなどの後片づけを手伝っている利用者もいる。なお食事は職員も一緒に食べ、職員に介助されている利用者も多い。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日午後、利用者の希望に応じ時間に配慮して行っている。衣服の着脱など入浴に抵抗のある人はタイミングを見て入浴を支援しているが、一旦入浴すると、くつろいで楽しんでいる人も多い。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の過去の生活や経験を活かし、その日の体調に応じて料理や洗濯物干し・たたみ、掃除などの役割や、カラオケ、読書等の趣味を支援している。またレクリエーションを行っており、季節の行事や大衆演劇を見に行き楽しむこともある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望があれば、個人々々の状況に応じ職員が付添って食材の買い物に行ったり、近辺の緑地公園などへ散歩に行ったりしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間はホームの玄関に鍵をかけるが、居室は利用者の希望がない限り鍵をかけていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導で法人全体で年2回避難訓練を実施し、ホームの避難経路の確認を行っている。なお地域(松江地区)とは防災について連絡をとりあっている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設の栄養士と相談して献立表を作っており、栄養のバランスも考えている。また食べた量や一日の水分摂取量もチェック表で把握し対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同の空間はテレビや人の声も大きくなく明るさも適当と感じられた。共同室には行事の写真や手書きのカレンダーなどを吊るし、また台所のカウンターの上の花瓶に花木を活け季節感を出すようにし居心地よく過ごせるよう配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は部屋にもよるが、使い慣れた家具を持ち込んだり、壁には家族の写真や手書きのカレンダーを貼り、また好みの手芸品を置いたりして、本人が居心地よく過ごせるように配慮している。		